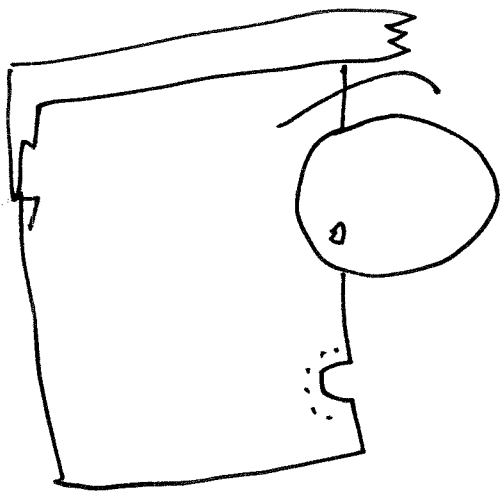
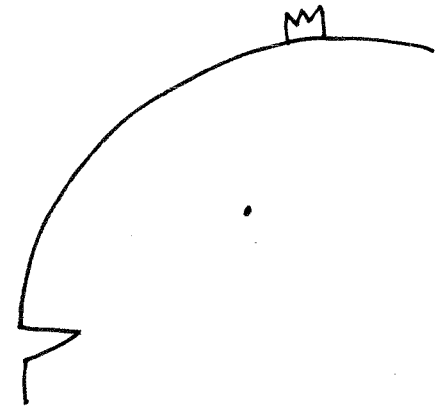
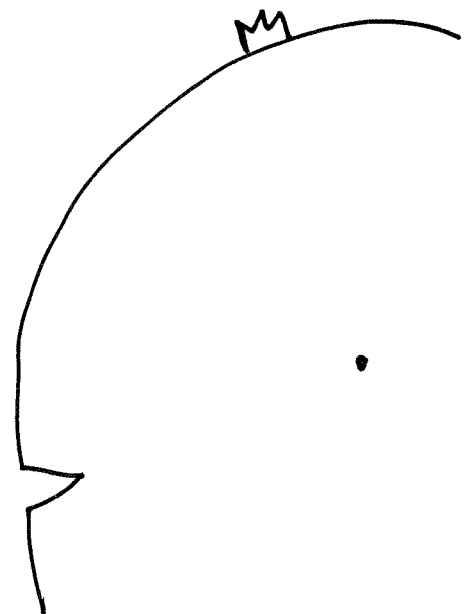


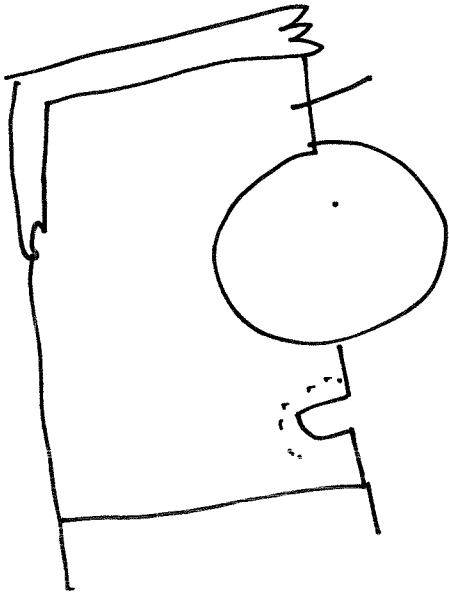
私とは誰か
 といふ問は、ぼくたち
 を本当の自分にあか
 せてくれる。……
 らしいんだ。



本当の自分がある、生きている間に
 ぼくは本当の自分にならぬのかなあ？

大丈夫、なれるよ。

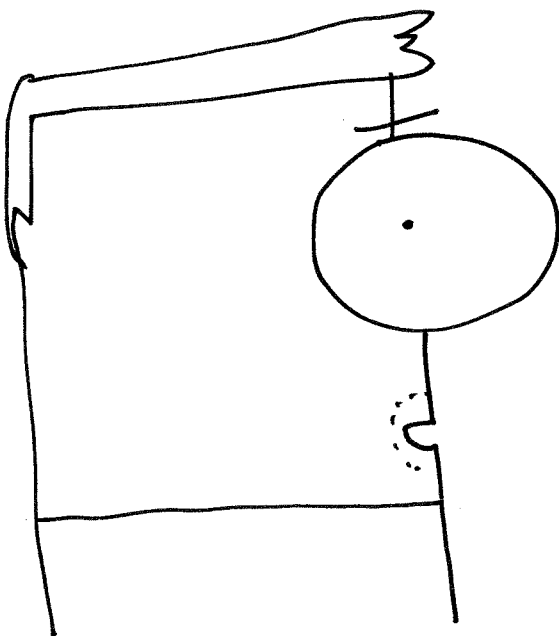
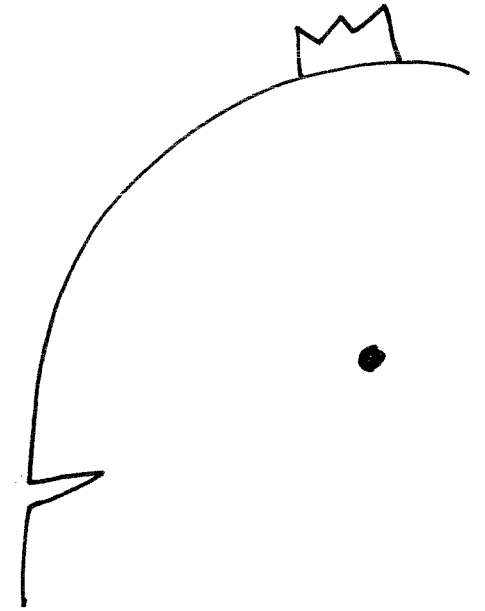




でもどうして 本当の自分に 出あわ
なければならぬんだろ。

それは、君が そういう人生の
ステージに きているからだよ。

自然と そうなるんだよ。
(問うめに)



すべての人が
~~たかでも~~ 『私とはだか』
を問う 必要があるのでは
ないか？

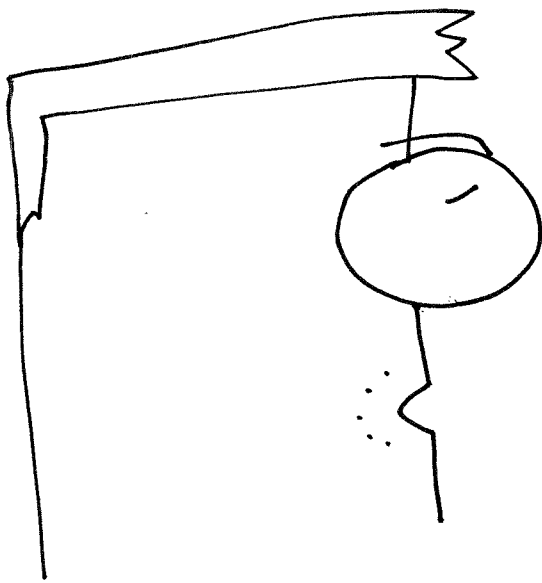
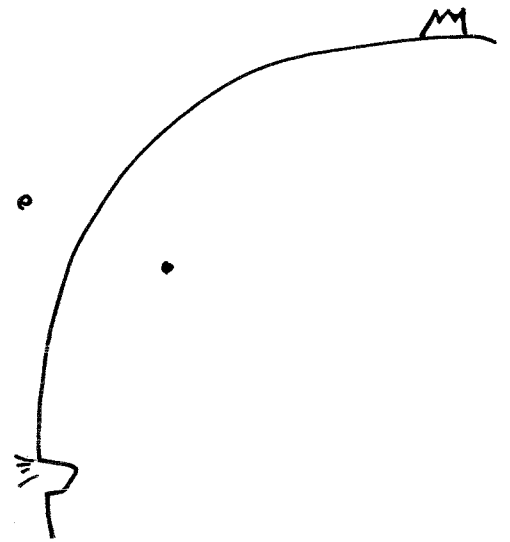
もちろん

本当はすべての人が

『私とは誰か』を問う必要がある。

けれど、それを問う時期は人により

よってさまざまだよ。



またその時期にきてない人

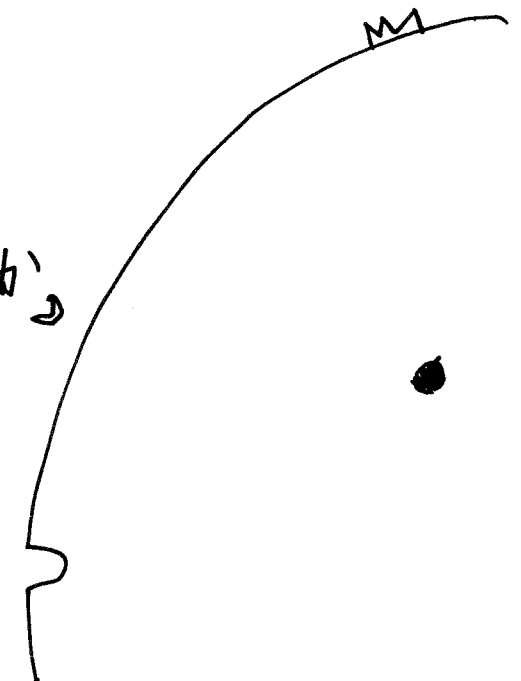
もいるのか。

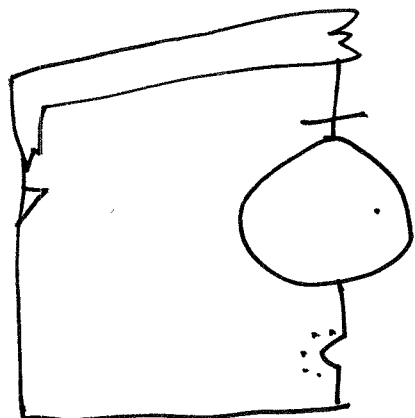
そのとおり。

ところで君は、『私とは誰か』

についてわかったのか？

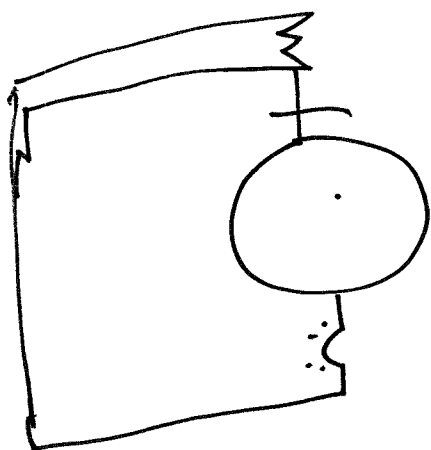
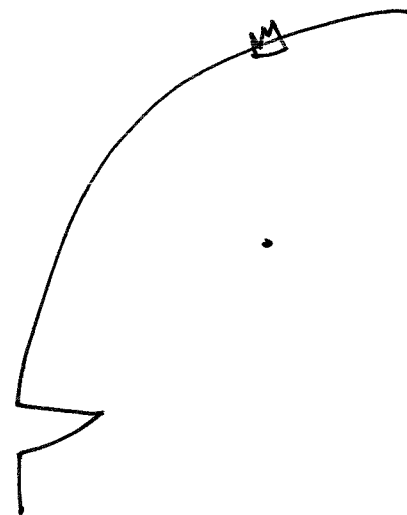
何か





最近、わしだけわかたような
気がする。

それで

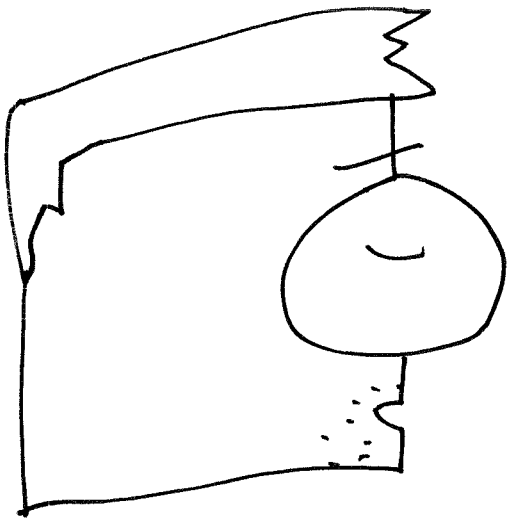
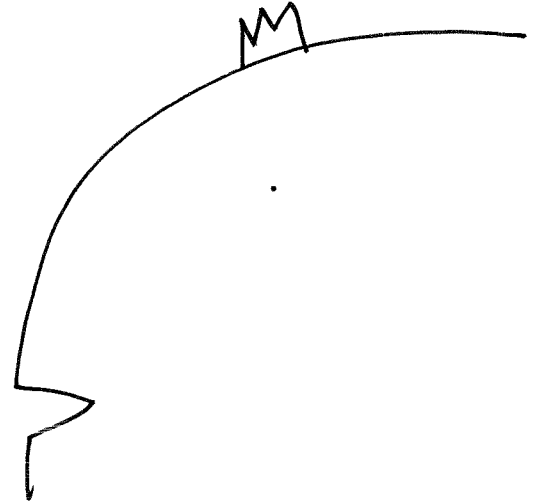


私とは、今、この瞬間^{いんかん}に現る
わけているものの完全性を

全面的に肯定するものじゃないかと
思うんだ。
(^{いんかん}感謝)

そういえば君は、すべては

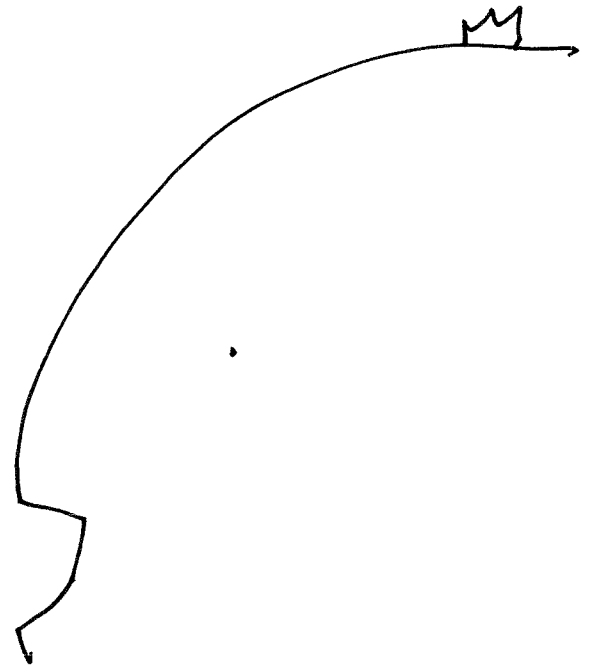
完全であるといつてもいいわね。

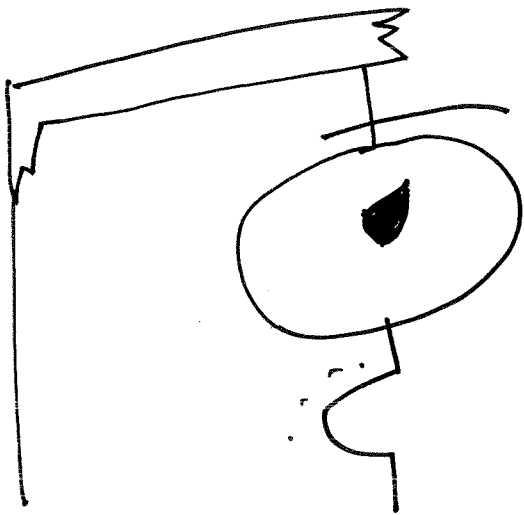


個人レベルで見ると、又は
人間レベルで見ると

不完全きわまりなくみえること
は多い。

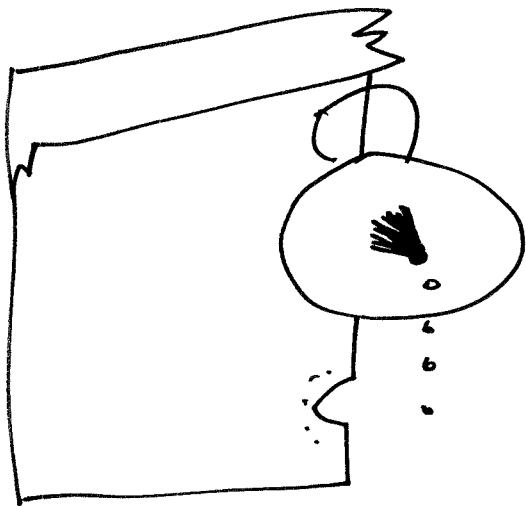
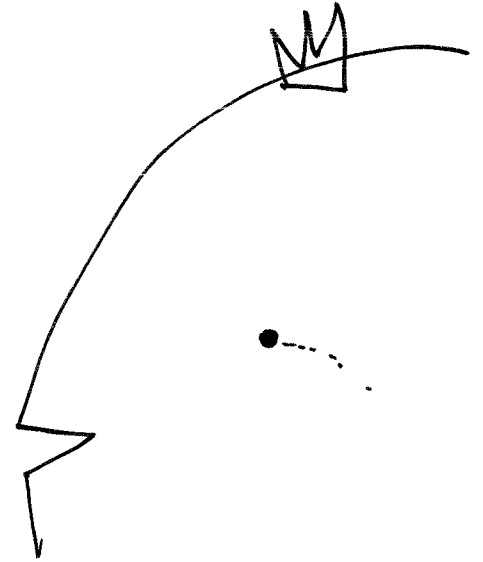
えり●えうだ。
あ



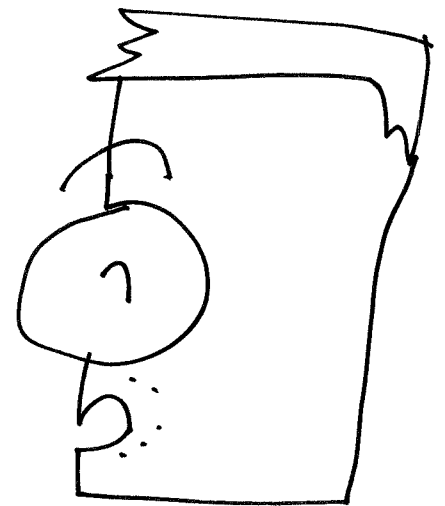


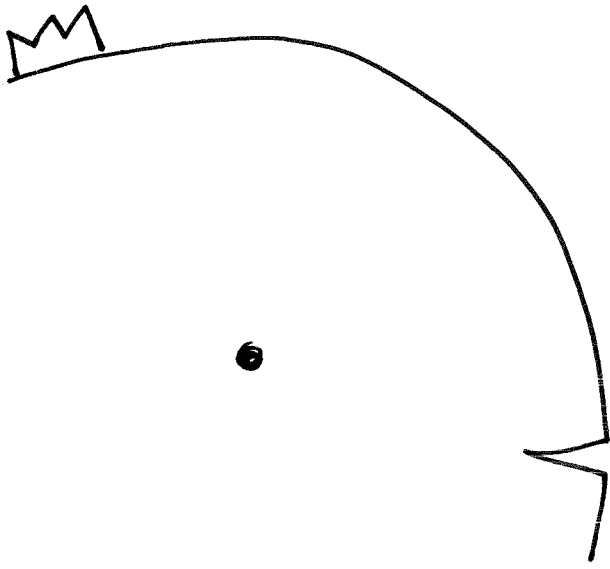
起っている内容を見ると
完全じゃない。

涙気や負困が世界中にある。



かたしいことも
うれしいことも
ある。

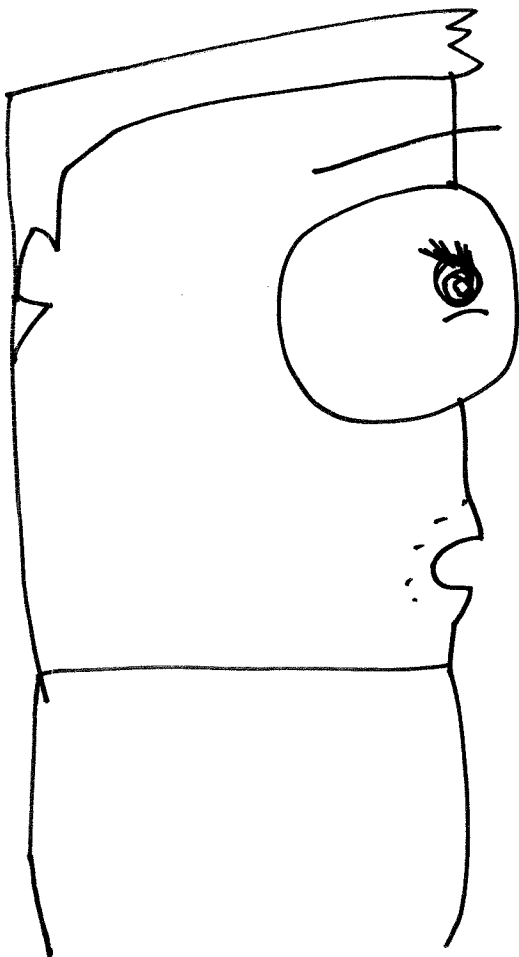




起きている内容が

完全だとしているわけ

じゃないんだね。



今、この瞬間にあつちか²

いる一つ一つのものを完全と

しているわけではなく、それらの

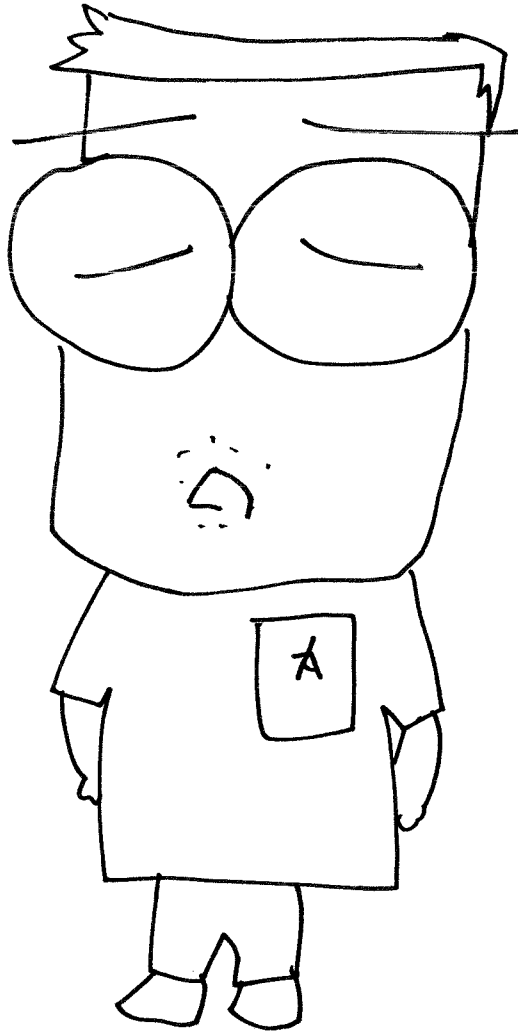
せあつめを完全としている

わけではない。今、この瞬間が

完全性をおびているといて

いる。

目を閉じて、今、この瞬間、自分の
意識をほんの少しだけ、身体より外側の

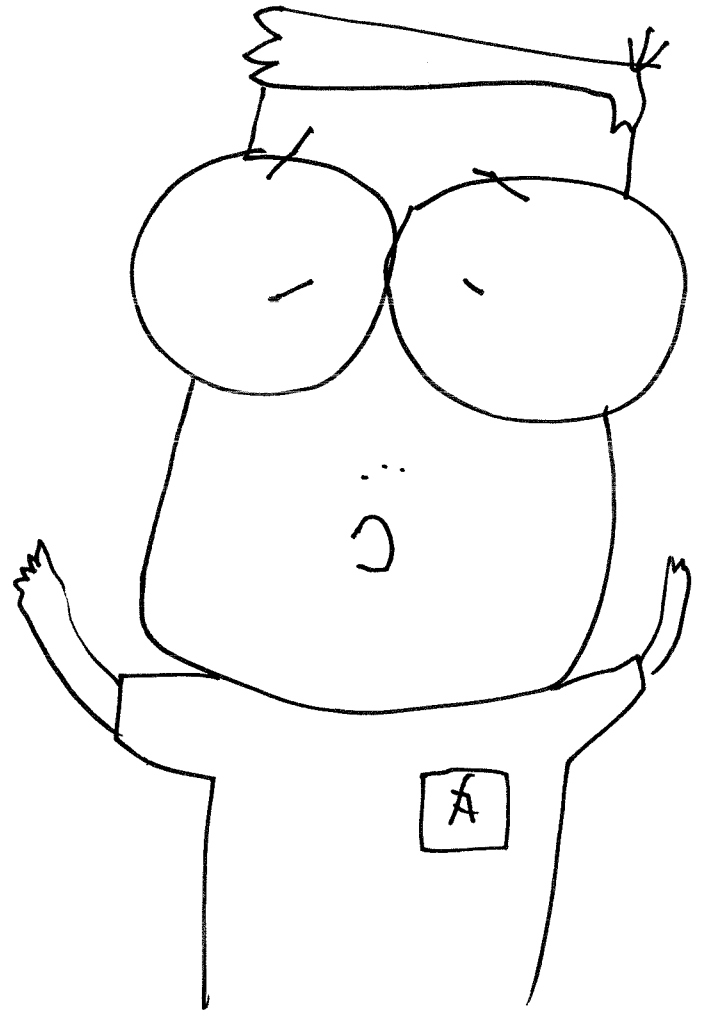


空間においてみる。

空間に意識をおく

身体がゆるんでいく

のがちがよ



丸山という意識だったものを

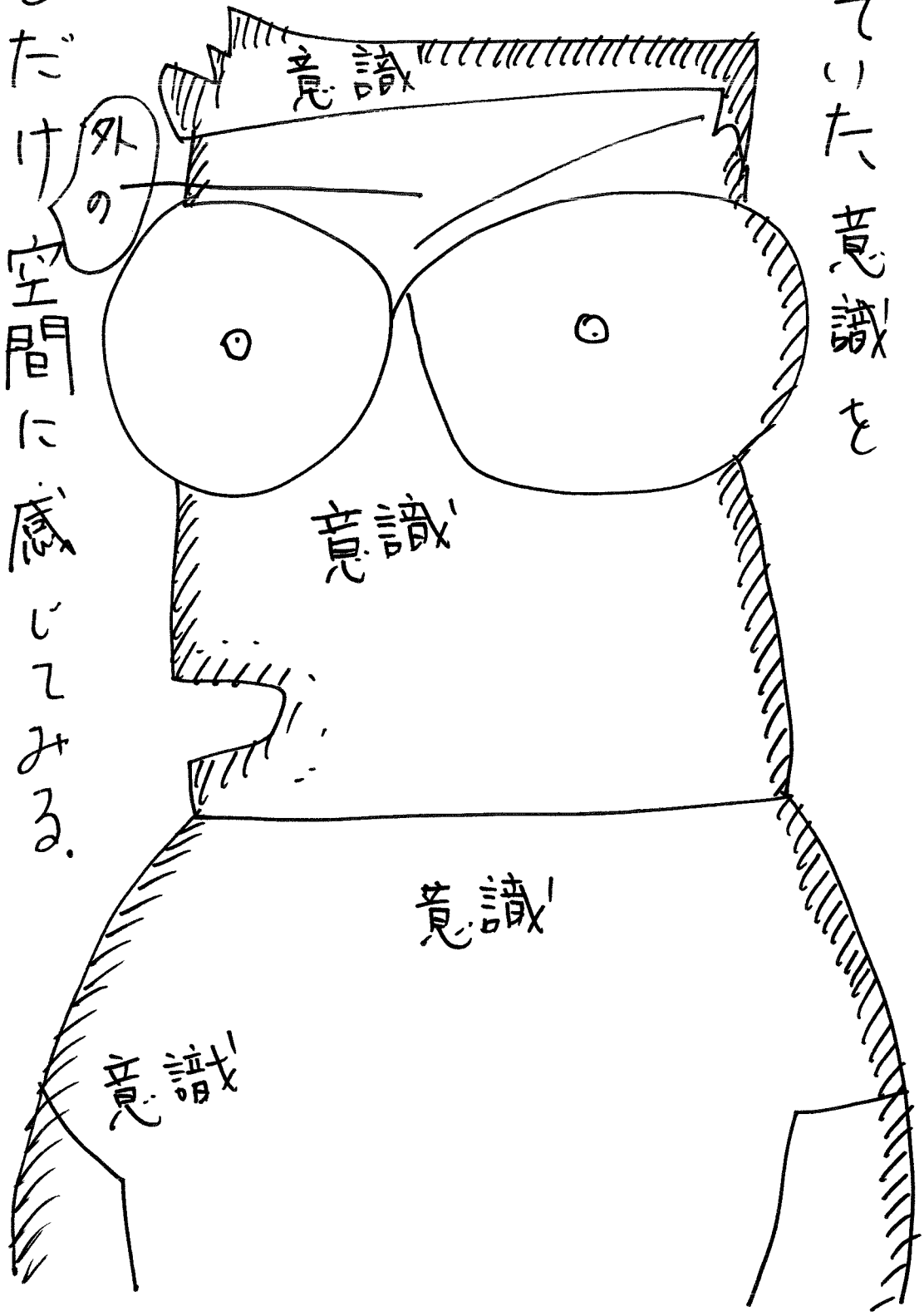
丸山の外側にもあると想像して

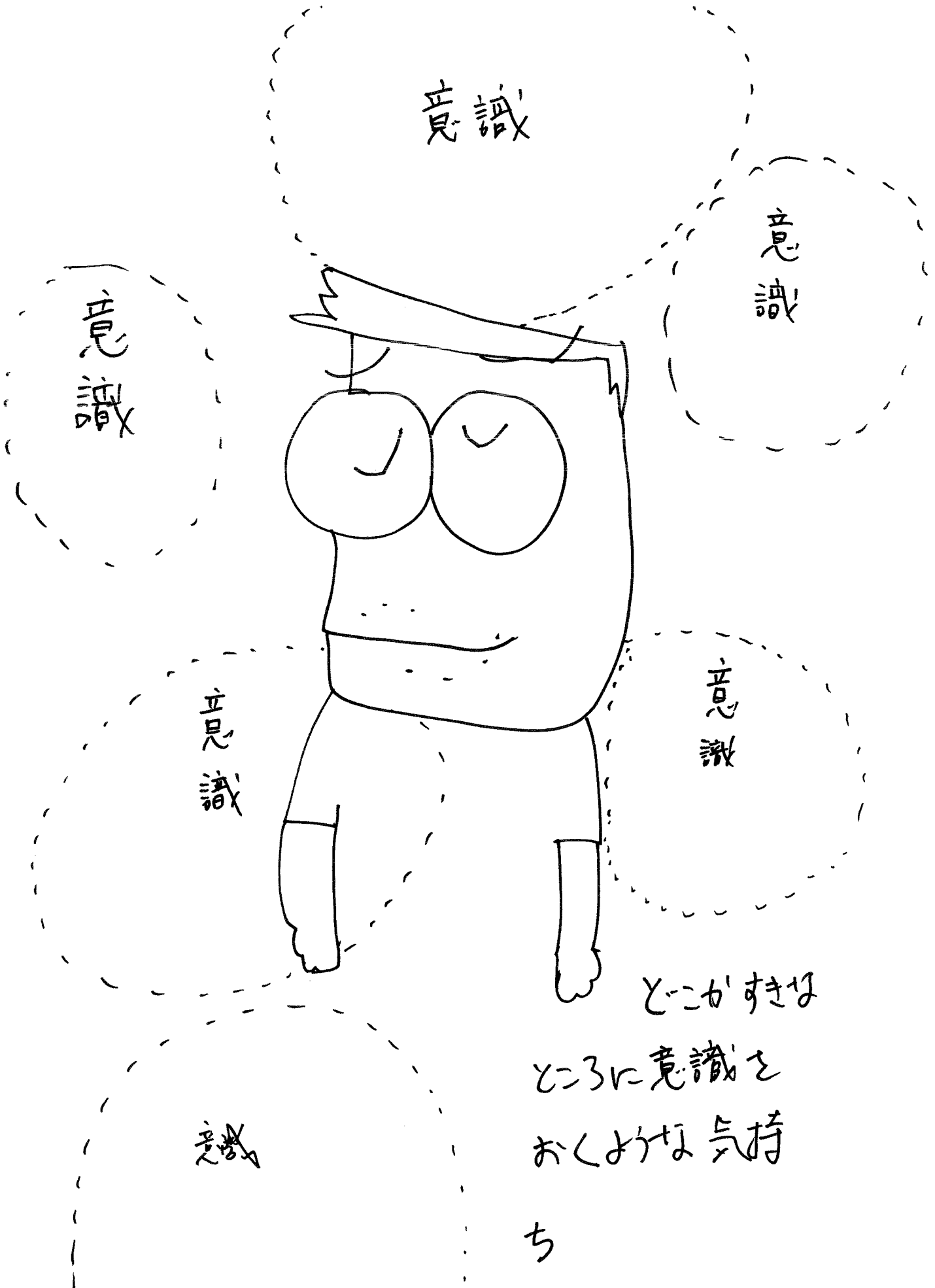
みるんだよ。

いつもは、自分の身体の内側にしか

ないと思っていた、意識を

ほんの少しだけ、外の空間に感じこみる。





意識

意識

意識

意識

意識

とこが好きな

とこに意識を

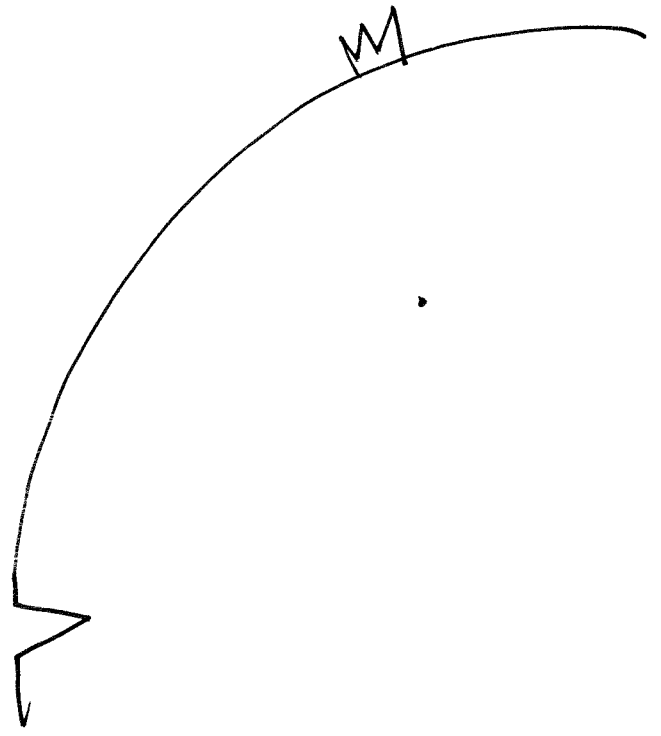
おこす気持

ち

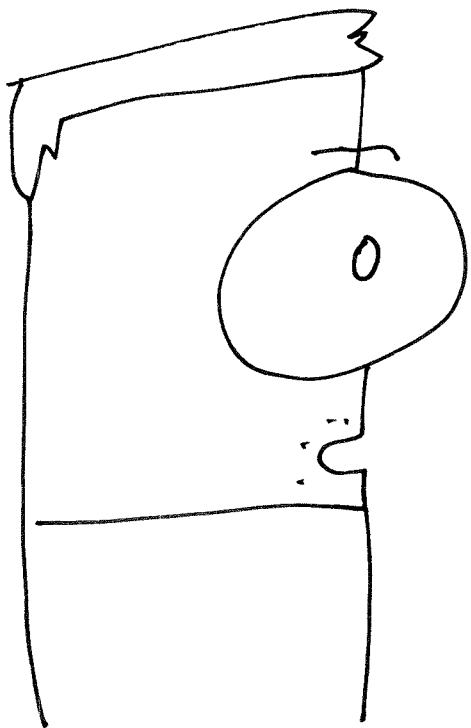
意識

どんた

感じ……



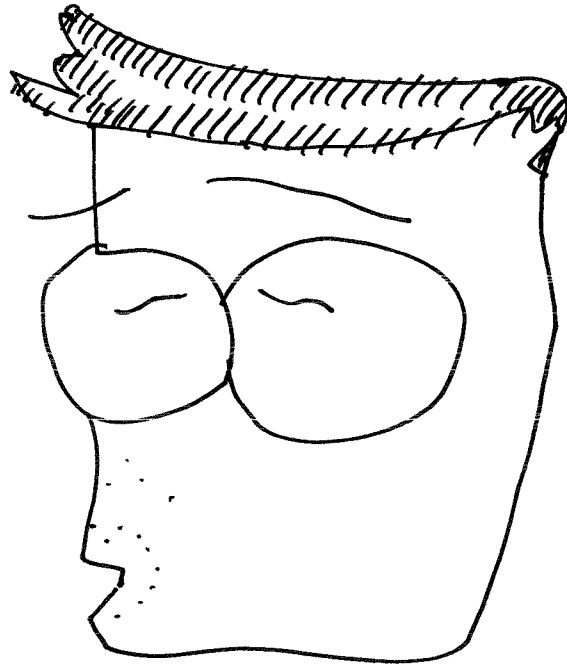
??



眼をしてしているせいか、自分の
 この意識が空間でもある。
 身体と身体の外側の空間に
 境目がないような感じ。

ずっとこうしていたいような

ボーンとしてるわけでもない。

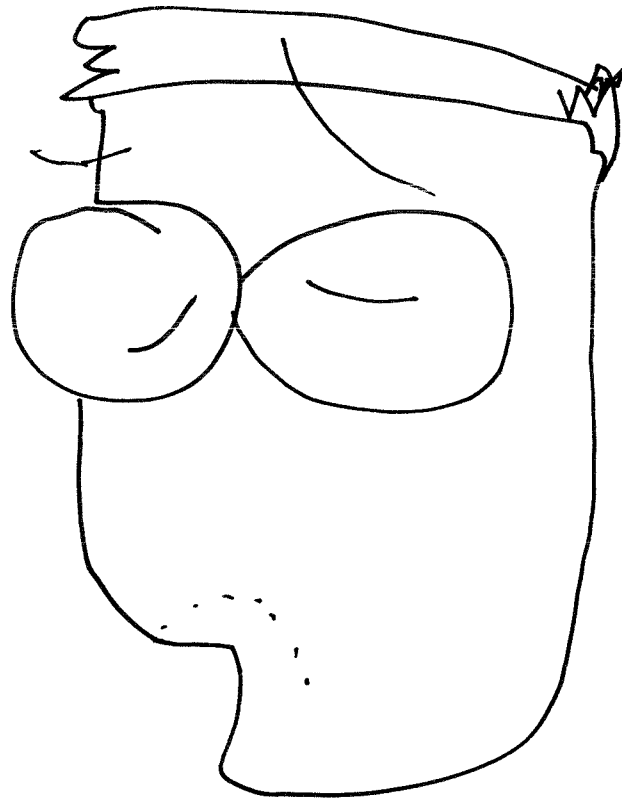


何も考えられなくなる
 んだけど...

たよぬ。

なんかくつろぐん

私⁷
しが
空間に溶けこいて



しまう感じ。

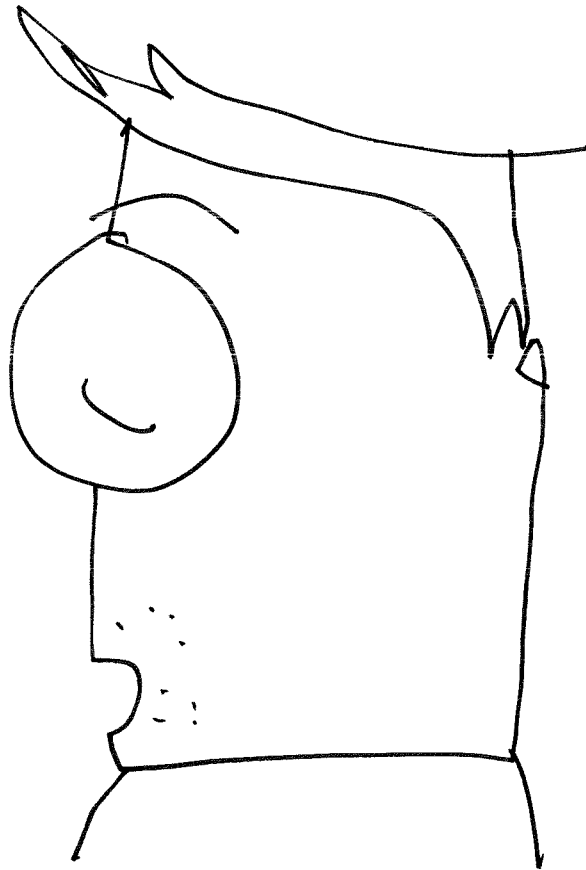
まるできもちのい

いベッドに吸いこ

まよるような...

私っていうのは、もともと

一人だ、一人だという



田んぼ。

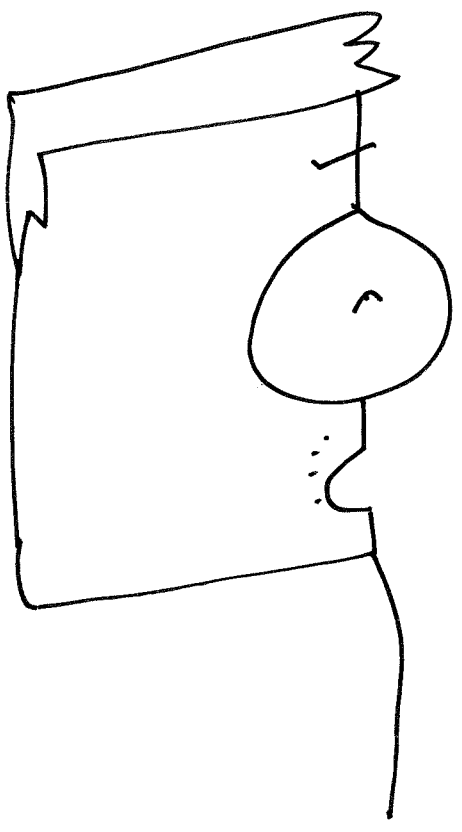
今この瞬間、現れているものごとく現れさせる働き

がこの空間にはある。

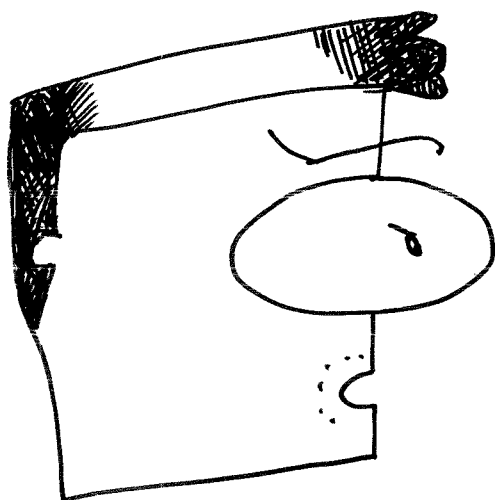
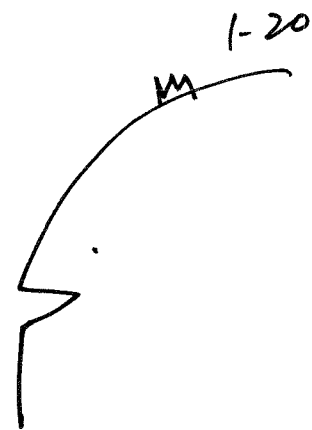
そしてこの空間と私の意識

は異ならずである。

あるがままに



この空間(意識が在る)に君という
ものの人生が現われている。



この空間には
起るべきことがあり
現れるべきことが現れる。

それも完全性だよな。

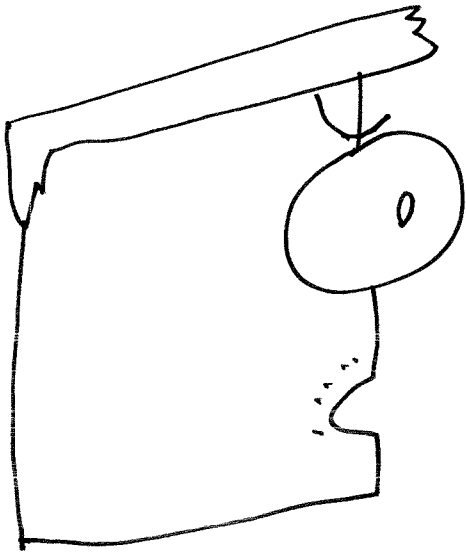
そして この空間こそは。私の意識と

異なりあ!!

あらゆる現象を可能にする この空間の完全性を

感じるときがある。空間に意識を比べれば。

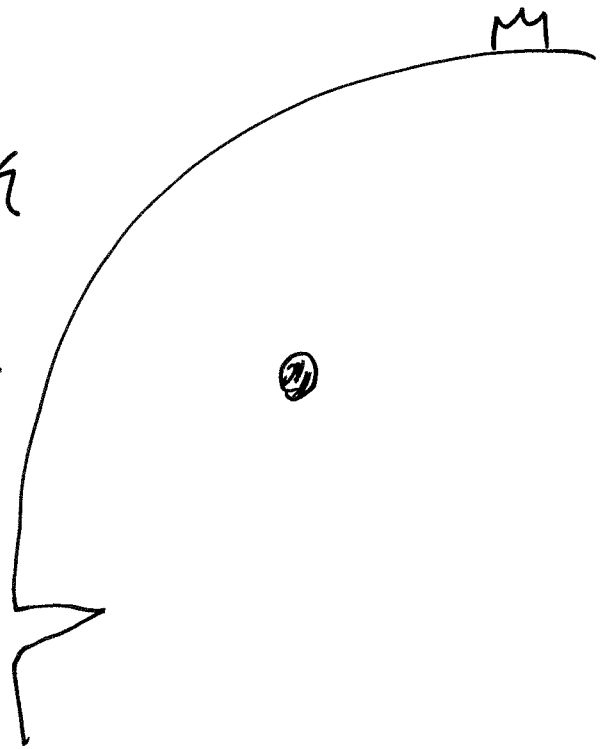
空間の神性に気づく。創造をにたっている神性をね。

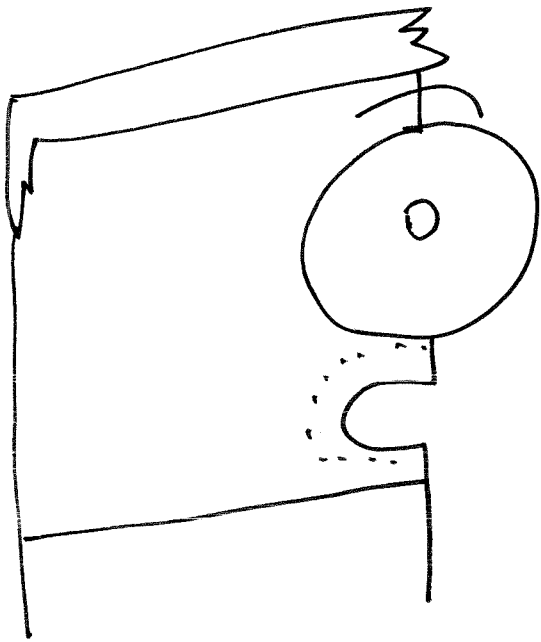


おどろいたことに、目を閉じ
て、空間に思いつく
心をよせるとき、まわりの音が

聞こえるのに、静けさも同時に感じるんだ。

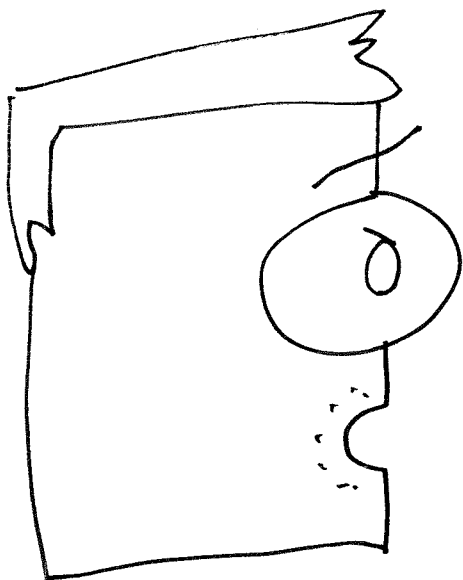
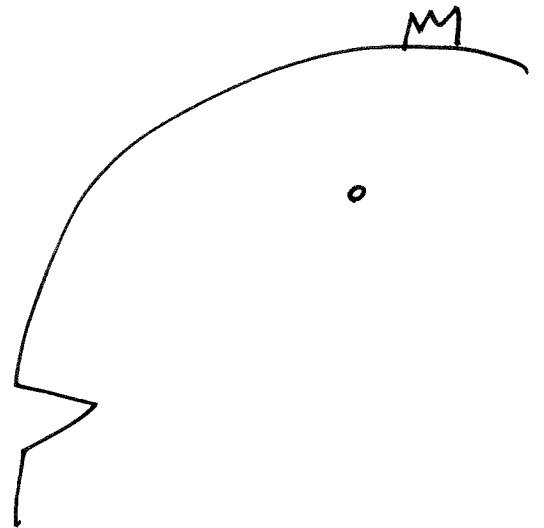
その静けさが ^{もと}源とあって、そ
こにほくたちが現実と呼
ぶものが現れる
んだね、そして、それは
君でもある。あらゆる人でもある。





あ、この静けさは
 ハートの聖なる空間に
 いるときの静けさと同じだ。

そういえば そうかも



内側、内なる空間と外にある
 空間は一つなのか!!